

第1回沖縄鉄軌道市町村会議（南部）

日時：平成27年5月25日(月) 14:00～16:00

場所：南部合同調査5階 第1～4会議室

■ 出席者（敬称略）

所属	氏名	備考
那覇市 都市計画部都市計画課 参事	比嘉 和則	
浦添市 都市建設部都市計画課 課長	宮城 剛	
糸満市 企画開発部政策推進課 参事	神谷 和男	
豊見城市 都市計画課 課長	金城 道夫	
南城市 生活環境課 課長	屋比久 正明	
与那原町 企画観光課 参事	上原 丈二	
南風原町 総務課 課長	比嘉 勝治	
八重瀬町 まちづくり計画課 課長	嘉数 成裕	

■ 議事

1. 開会
2. 沖縄鉄軌道市町村会議設置要綱について
3. ステップ2の検討内容について
4. 質疑応答及び意見交換
5. 閉会

《 議 事 メ モ 》

発言者	発言
浦添市	<p>今年度中にどのような計画案を策定するのか。</p> <p>⇒起終点の概ねの位置やルート、システム、駅数や駅位置の考え方、構造などを想定している。</p> <p>今年度は、意見交換という形だが、次年度以降の事業化にあたっては市町村が検討組織に加わる可能性はあるのか。</p> <p>⇒次年度以降の市町村のかかわり方については、今後検討していく。</p> <p>駅の概ねの位置はどのように決めるのか。どの程度、市町村の意見が反映されるのか。</p> <p>⇒具体の駅位置を決める予定はない。駅をいくつぐらい設けなければならないか、どういったところに駅を置くべきか、駅を設ける場合にその結節点をどのように設けるかなど大まかな考え方を整理していくものと考えている。</p> <p>現在、基幹バス導入に向けた取組として、バスの再編等検討が進められている。鉄軌道の整備を契機にバス網の再編は検討されるのか。LRTとの関係はどのようになるのか。</p> <p>⇒鉄軌道と基幹バスが併走するようであればバス網の見直しが必要になると思われる。ステップ3で基幹軸のルートの検討と併せて、フィーダーについても検討していく予定。</p>
与那原町	<p>今回の検討では、具体的に駅の位置等までは検討しないということなので、現在、私たちが検討している鉄軌道のフィーダーとしてのLRTについては、県の計画には取り込まれないと理解してよいか。</p> <p>⇒市町村の計画との整合性を図ることも考えており、今後の意見交換を通じてどのように取り込んでいくか検討していきたい。</p>
八重瀬町	<p>鉄軌道を南部の市町村まで延ばすというのは考えられないのか。</p> <p>⇒現時点で起終点も定まっておらず、幅広い意見をいただきながらステップ3でしっかり検討していきたい。</p>
那覇市	<p>バスレーンなど交通規制に関連する施策では警察との調整が大変だが、交通管理者とのかかわりはどう考えているのか。できるだけ早く関係機関に加えたほうが良いのではないか。</p> <p>⇒今後の検討の進捗状況に応じて検討体制に加えていきたいと考えている。</p>

発言者	発言
浦添市	<p>事業化の時期はいつぐらいになるのか。</p> <p>総合交通体系基本計画で示されている時期との整合は。</p> <p>⇒いつ運行するかは答えにくいですが、2020年には工事着手したいという考えはある。</p>
豊見城市	<p>短中期は10年、長期は10～20年という解釈でよいのか。</p> <p>⇒そういうイメージでいいと思う。</p> <p>長期のイメージとなっているものが、短中期で実施する可能性もあるのか。</p> <p>⇒議論の結果、前倒しになる可能性もあるが、県民や地域の理解を得ながら進めていくべき事業であるため、状況をみながら時期も変わっていくと考えている。</p>
那覇市	<p>採算性というのが一番の大きな課題だと思うが、見通しはどのようになっているのか。</p> <p>⇒内閣府でも調査を行っており、整備運営が一体であれば採算はとれないという結果になっている。県の検討では、上下分離方式であれば、4万人以上の利用で採算がとれるという結果になっている。</p>
浦添市	<p>会議資料を事前に送信して欲しい。市町村会議の場で、国（内閣府）の検討に関する情報提供をお願いしたい。</p> <p>⇒事前に資料を配布してスムーズにいくように対応する。</p> <p>また、ステップ3以降の検討にあたっては、県の調査結果や内閣府の調査結果の活用も想定しており、資料にも盛り込んでいくことになると思う。</p>
那覇市	<p>ステップごとに市町村会議をするのか。</p> <p>⇒ニューズレター配布時期にあわせて開催する。</p>